



あか な
赤ちゃんが泣いてばかりいるのはどうして

あか な せわ
赤ちゃんが泣くのは、世話をしてほしいとき

あか な せわ
赤ちゃんが泣くのは、たいてい、何か世話をしてほしいときです。

あか おとな ひと せわ い
赤ちゃんは、大人の人の世話なしには生きていけません。ですから、お乳がほしいとき、おむつがぬれたとき、ねむいとき、さみしいとき、びょうき のときなどに泣きます。まだ、ことばを話せない赤ちゃんは、「おなかがすいた」とか「気持ちが悪い」とか「痛い」など、いろいろなことを、泣き声で知らせようとして泣くのです。そして、まわりの大人の人は、それを聞いて、赤ちゃんが何を要求しているかを知り、世話をします。

あか な なみだ な
赤ちゃんが泣いても涙を流さないのは

あか う すう げつ あいだ な なみだ な
赤ちゃんは、生まれて数か月の間は、泣いても涙をぼろぼろ流すことはありません。

これは、なみだ るいせん はったつ
これは、涙をつくる涙腺が、まだ発達していないことと、うれしいとか、悲しいとかいった、こころ かんじょう はったつ
こころ かんじょう はったつ
高度の感情がまだ発達していないためです。しかし、その間も、あいだ め まも
め
涙は、たえず出ており、目をうるおしています。(監修・保志 宏)

